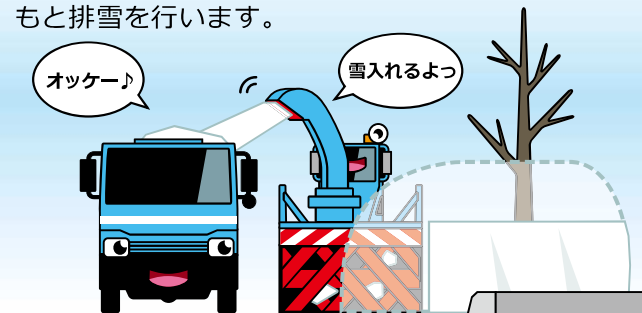


排雪とは

除雪で積み上げた雪山を、ロータリ車などで削り取り、ダンプトラックに積んで雪堆積場などへ運搬する作業のことです。

市では、幹線道路(交通量が多く、道路の幅が10mを超える道路)を主に排雪します。住宅街を通る生活道路に関しては、町内会から申請のあった路線について、パートナーシップ排雪制度等のもと排雪を行います。



排雪を行う時期

雪山が高くなったり道路の幅が狭くなって、これ以上雪の置き場がなくなってきた場合など、全体の工程も考慮しつつ総合的判断で排雪を開始します。

通常は**シーズン1回**、おおむね**1月中旬～2月下旬**に行います。

排雪には、たくさんの人と機械、またお金

1 人と機械

排雪を行うには、多くの人員と機械が必要であり、また作業には相応の日数を必要とします。

「除雪」の1チーム 1kmで **4万円**

タイヤショベル2台4人 グレーダ4台8人

「排雪」の1チーム 1kmで **320万円**

大型ロータリ1台2人 タイヤショベル1台2人 ダンプトラック15台15人

グレーダ1台2人 バックホウ1台1人 誘導員3人

※片側3車線の道路を
除雪・排雪したときの比較

人も機械もダンプも減っていて、確保するのが大変なんだ...



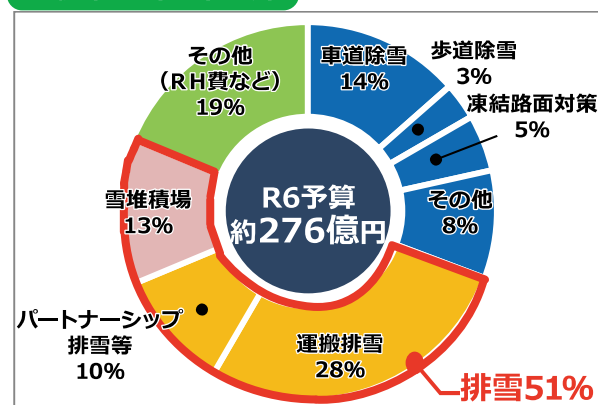
が必要で、そのうえ雪堆積場の確保も不可欠となります。

2 お金(予算)

排雪を行うには、たくさんの人と機械と日数が必要であることから、同じ距離を作業するのにも除雪に対し約80倍もの費用が必要になります。

また、札幌市の雪対策予算は、令和6年度は約276億円となっていますが、そのうち「排雪」に関する費用が全体の半分を占めています。

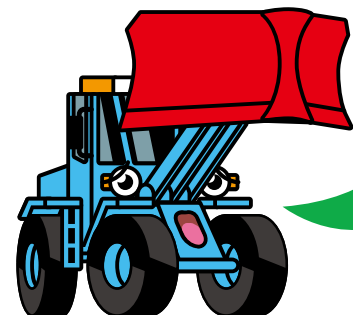
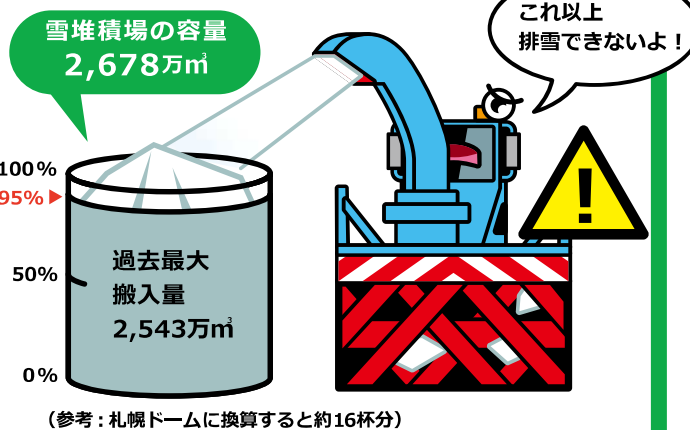
札幌市の雪対策予算



3 雪堆積場

雪堆積場には広い土地が必要で、かつ大量の雪解け水の処理が可能な場所でなければならず、新たな場所を確保するのはなかなか簡単ではありません。

現在確保している雪堆積場は、市全体で82か所(容量: 2,678万㎡)ですが、過去の最大搬入量(R3: 2,543万㎡)は、それに対して約95%と迫っており、余裕はない状況です。



「どうして排雪は年に1回しかできないんだろう?」「なんでもっと排雪を取り巻く状況はとても厳しく、これ以排雪量を少しでも抑えるため、また排雪をス

雪を持って行ってくれないんだろう?」「排雪が思うように進まないのはなぜだろう?」
——— と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、**上増やすことはむずかしいのです。**
ムーズに進ませるため、みなさんのご理解とご協力が必要です!

市の取組

メリハリをつけた排雪をしています!

【排雪抑制】

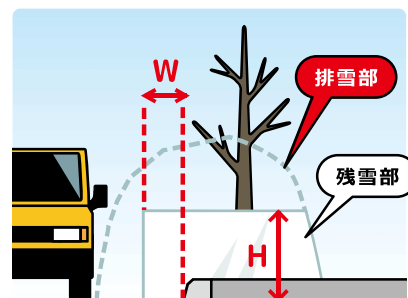
多くの幹線道路においては、排雪量の抑制を目的として、図のように路側部の雪を残した排雪を行います。

【排雪強化】

バス専用(優先)レーンや狭小バス路線などでは、バスの定時運行の確保のため、通常シーズン1回の排雪を2回・3回と増やして対応している路線もあります。

【排雪抑制】幹線道路

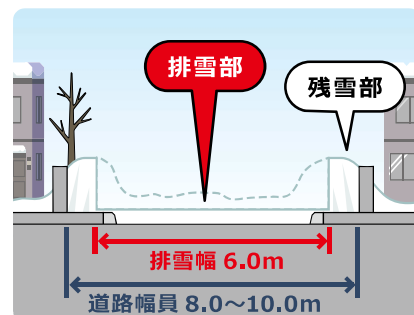
図のように雪を残して排雪します。



W=車の通行に支障がない程度まで (0～1.0m)
H=車からの見通しの良い高さまで (1.2m程度)

【排雪抑制】生活道路

パートナーシップ排雪制度等により排雪をする場合に適用。



ご理解を!

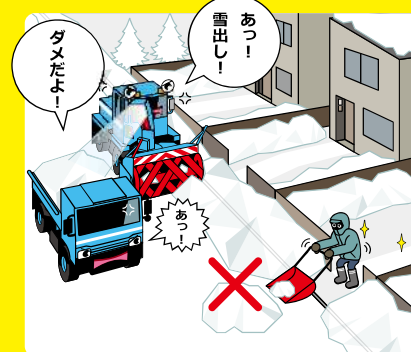
市民の取組

排雪量の抑制にご協力ください!

❗ 雪出しはやめてください!

排雪時の雪出しは排雪作業の遅れにつながるほか、排雪量が増えることにより余計に費用がかかってしまったり、雪堆積場の容量オーバーにもつながりかねません。

排雪の日に合わせて、敷地内(屋根や庭)の雪を道路に出すのはやめましょう。



ご協力を!

雪ふみで雪を減らしましょう

フカフカの雪を踏み、体積は約1/5にまで減少します。雪ふみをして、敷地内での雪処理を心がけましょう。運動不足の解消にもなり一石二鳥!

地域の雪置き場として公園を活用しましょう

町内会と札幌市で覚書を取り交わすことで雪置き場としての活用が可能となります。

